

2025年度(令和6年度)事業方針 及び 計画
(2025年4月1日～2026年3月31日)

認定特定非営利活動法人こまちぷらす

1. 事業の活動方針

2つのカフェを拠点とした「子育て世帯とまちをつなげる取り組み」を中心に、産前産後の家庭にまちからのお祝いと応援を届ける「ウェルカムベビープロジェクト」、カフェの夜営業や保育園と連携したお惣菜事業等、働く世帯へのアウトリーチ的な事業等を進めながら、不登校・引きこもりの子を持つ親や、子ども達自身がこまちカフェで安心して過ごせる場づくりもさらに深めてきた。その中で、産前産後や未就学児のみならず学齢期の子どもたちが、まちの様々な大人達に見守られながら成長していく環境づくりの大切さも強く感じている。

また、2024年度は、長野県・北海道にて「居場所づくり講座」を現地の団体との連携で開催し、全国各地で「自身も居場所をつくりたい」と考える方々が自身の地域に仲間や応援してくれる人の存在を得ながらチャレンジができる機会づくりの重要性も再確認した。

以上のことから、2025年度は2024年度から引き続き各事業を進めながら、以下2点に力を入れていきたい。

・こどもたちの学びと経験の機会をまちの中で増やす取り組み

近隣の商店会や企業等と連携し、主に学齢期の子どもたちの学びや経験の機会を作る。企画にあたっては、小学校に協力を依頼し子どもたちの声を収集。子どもたちの思いと声に基づきながら、賛同してくださった方々と企画を進めていく。

・居場所作りを学ぶ/研究するネットワークの構築

これまで12期にわたり開催してきた「居場所作り学びあい講座」や、2023年度に岡山、2024年度に長野・北海道で開催した講座の受講生たちが、その後の実践で感じた学びや課題を共有できるオンラインコミュニティ「こまちIBASHO 研究会」を立ち上げる。そこには、受講生のみならず広く居場所づくり講座に関心のある方が参加できるようにし、教育機関や企業の研究者等ともつながれるプラットフォームとしていく。

<事業内容>

I 子育て情報の提供

1. 地域子育てカレンダー事業

- ・内容:【概要】地域の子育て情報を、地域子育て支援拠点との連携により収集し、ネット上に毎月100～200件ほどデータベース化しネット検索できるよう掲載。地域別、テーマ別、キーワード毎に検索ができるようになっている。自宅からなかなか出られない出産直後や転入など、地域情報にたどりつき辛い子育て当事者に向けて、地域の施設が発行しているチラシ情報をネット上で検索できる状態にすることで、孤立の解消につなげることが狙い。拠点運営法人より受託、実施。
- 【2025年度の取り組み】2025年度も、これまで通りチラシをwebから閲覧できるように内容を逐次入力することを継続。今年度はこまちパートナーとスタッフの入力力メンバー同士のチームづくりをしていく。具体的には、コミュニケーション・情報交換の機会をつくり、チーム内で正確な情報掲載ができる工夫を継続しつつ、お互いに円滑な連携が図れるようにしていく。閲覧者が読みやすいような入力を目指したり作業を通して気づいたことをチーム内で共有したりして、改善点の提案を継続していく。加えて閲覧者数や利用者の声を共有し、地域こそだてカレンダーに関わっているメンバー1人1人が無理なくやりがいをもって継続して関わられるようにしていきたい。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区内
- ・従事者人員: 9名
- ・受益対象者: 区内外の母子中心に、のべ 15,000名程度
- ・支出額: 267,901円

2. とつかの子育て応援ルームとことこ 情報スペース運営事業

- ・内容:【概要】年間約1万人以上が来場する、戸塚区役所内にある子育て情報発信及び託児機能をもつ施設において、情報発信スペースの運営を拠点運営法人より受託、実施。1人の情報コンシェルジュが常駐し、月間100件ほどの相談を傾聴、区役所の窓口含め必要な支援や情報に案内している。ベビーカーレンタルや体重計の貸し出し等も実施している。
- 【2025年度取り組み】2025年度も引き続き気軽に立ち寄れる場所として、区や地域子育て支援拠点とつとの芽と連携しながらとことこの周知に努める。今年度は地域の資源の取材として、地域の身近な相談役である子育て支援員がいる、親子で集まれる「遊び場・しゃべり場・ほっとタイム」へ情報コンシェルジュが取材に行き、子育ての不安や悩みを相談できる場所の情報を提供していく。また年度後半までに、子育て情報誌ゆめの「子育てのリアルなタイムスケジュール」を元に、育休復帰後の日常生活のイメージがつきにくい方へタイムスケジュール例を大型掲示で紹介し、育休復帰の不安を軽減できよう報提供をしていく。さらに区が毎月発信するX投稿では、区政推進課の協力を得ながらとことこ紹介や地域情報の発信からとことこを知らない方へのアプローチを引き続き行う。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町16-17
- ・従事者人員: 3名
- ・受益対象者: 区内外の親子中心に、のべ10,000名程度
- ・支出: 1,958,956円

II. 子育てをしている人、子ども、地域の人が思いを言語化し、つながりをサポートする場づくり

1. こまちカフェ

- ・内容:【概要】日祝日を除く毎日(月曜日～土曜日)戸塚駅から徒歩7分のところで「こまちカフェ」という居場所を運営。飲食の提供、

雑貨の販売、イベント企画を通して子育て中の母親のリフレッシュや外出動機の創出、仲間づくりのきっかけや気持ちを言語化できる機会づくり、新たな情報や視点との出会いの場をつくっている。当事者や支援者・企業・行政等様々な主体の人の「ニーズ」や「できること」が集まり、コーディネートしながら活気のある場をつくっている。この部門では主に、飲食の提供を通した豊かな居場所づくりをしている。

【2025年度取り組み】今年度はより地域の親子が集まり、安心して過ごせる場の提供をする。リフレッシュできる機会、誰かと話をする機会、参加の機会もより意識して作っていく。子育て世代の親御さんには、マタニティ期から産後、そして子どもの成長に伴い、不安の軽減となるようなおしゃべり会等のイベントを他部門、姉妹店のこよりどうカフェとも共有しながら開催する。また、父親が参加できる機会も積極的に作っていく。新しいコンテンツとして「1歳からのゆるっとママカフェ」や「パパも一緒におしゃべり会」を開催予定。また、全国からの「居場所を増やしたい」という方の視察対応も引き続き行う。加えて、他地域でも「こまちカフェ」「こよりどうカフェ」のような場所が作りやすいよう、また自分たちの団体にとってもメンバーの誰が入ってもわかりやすく動きやすくなるよう、体制と仕組みづくりも引き続き行う。こまちパートナーの方の「やりたい」や「得意なこと」を活かせる場としての機能も充実させていきたい。

OSNS運営について

子育て世代がニーズとする"気軽に店に入れる環境"や、「人に頼る」、「安心して飲食ができる」ができるような発信をしていく。

外出するプロセスやルーティンを考慮し、よりニーズに合うお客様対応を計画する。Instagramや、X、LINE、HP、動画配信を通し、店内の雰囲気や座席の写真、動画など積極的にニーズに合わせ、かつ安心して利用できるように発信を意識していく。

○珈琲スタンド

カフェ1階入口にあるコーヒースタンドの利用をさらに充実させていく。

地域のお客様に知っていただける機会や手軽に買える機会を作っていく。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員: 11名
- ・受益対象者: 区内外の母子中心に、のべ9,000名程度
- ・支出: 13,237,279円

2. こよりどうカフェ

- ・内容: 【概要】「こまちカフェ」姉妹店として、善了寺境内にオープン。こまちカフェ同様に、子育て中の方々が気軽に利用できるカフェとしての運営をすると共に、お寺の境内であることや敷地内に高齢者の介護施設があること等の立地条件も活かし、多世代が集える場となることを目指す。利用者のみならず運営に携わるボランティアも年齢や障がいの有無を問わず様々な方が関われる場として運営。日祝日を除く毎日(月曜日～土曜日)にて、居場所を運営しながら、近隣の保育園と連携しお惣菜を園に届ける取り組みや、障がいのある方の就労移行支援事業所との連携も進める。また、お惣菜のテイクアウトにも力を入れ、居場所に足を運び過ごすことが難しい方々との接点を作ることに取り組む。

【2025年度取り組み】

○カフェの運営

居場所としてのカフェの運営を安定して行うことをスタッフと常に考えながら、多様な世代の利用に柔軟に対応できるようなカフェを作っていく。常に、何を大事にしたいのか、どんなカフェを作っていきたいのかなどスタッフとも考え作っていききたい。ランチやカフェのメニュー開発など、こよりどうカフェならではのものをスタッフとの話し合いの上取り入れていく。また飲食以外でも様々な世代が来店するきっかけを積極的につくっていく。好きなことを共有できる時間、「私」を大事に過ごす時間として、「はじめまして、ほんのり」「映画と珈琲の日」「ようこそ、戸塚」「おかえり、関西」(それぞれの地域で予定)などを企画。terabaru企画として、音楽で繋がるライブや、戸塚の匠をゲストに招きまだ来店したことがない層へのアプローチも引き続き行う。その他、子どもたちが放課後に立ち寄れる場所として寺子屋「teracoya」も企画。出産前に不安や悩みを話せる場として、マタニティのおしゃべり会「出産前にちょっと寄ってみよう！お茶しよう！」を行う。

○テイクアウト事業

お惣菜のお届けやお弁当お惣菜のテイクアウトについても、より沢山の方に届けられるよう、仕込みの体制や、発信の仕方等の体制強化をしていく。保育園へのお届け事業については、オンラインショップからの注文はハードルが高いということから、保育園へ出張販売を月に複数回、定期的に行う。また、近隣の学童などとの連携も引き続き行い、保育園以外にもお弁当などのお届けも行っていく。テイクアウトについても、お惣菜に加えてお弁当やスイーツなど様々なメニューを、子育て世帯のみならず、学生や一人暮らしの高齢者等にも利用いただけるような周知や仕組みに力を入れ、LINE・Instagram・Xなどの配信、チラシの作成などについては年間を通して計画的に行う。

○様々な人の関わり・地域連携

お子様連れの方が安心して一息つける場となると共に、子ども達が様々な大人に見守られて育つ機会となるよう見守りボランティアさんのいる体制を整えていく他、学生～ご年配の方々が関われる機会をもつことにも力を入れる。調理補助や片付け等、カフェの様々な業務において随時ボランティアの見学や体験を受け入れながら、継続して関わりたい方には「こまちパートナー登録説明会」を定期的で開催する。スタッフの体制も整え、対応できるスタッフの人数を増やし、関わりを増やしていく。また、近隣の就労移行支援事業所と連携し、障がいのある方の「働く」経験の場として、こよりどうカフェでの実習を継続的に実施し、多様な方々と一緒に作る店舗を目指す。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区矢部町
- ・従事者人員: 20名
- ・受益対象者: 区内外の母子中心に、のべ12,000名程度
- ・支出: 19,597,308円

3. お菓子部門

- ・内容:【概要】「こまちカフェ」内のお菓子工房において、主にクッキーやケーキなどの焼き菓子を製造し、「こまちカフェ」「こよりどうカフェ」両店舗の店頭のほか、オンラインショップや外部イベント等にて販売。小麦・乳・卵を使わず、アレルギーのある方も一緒に食べることのできる「心とからだにやさしいお菓子」が「気持ちを伝える」手段のひとつとなるよう、お客様にお届けする。カフェへの来店動機を作るとともに、配送を通じてカフェに足を運べない方にもこまちカフェとつながる機会を創出する。製造工程や作業を分担するほか、イベント販売に参加するなど、ボランティアやインターンの方、地域の方など多くの方が様々な形で関わることでできる事業として取り組む。

【2025年度取り組み】引き続き、製造作業の効率化と品質・製造量の安定化を図り、衛生管理や表示義務などにも留意した菓子製造を心がける。分かりやすい作業マニュアルやリストの作成、スケジュール管理、SNSを活用した販促の充実を図り、多くの方が関わりながら、手づくりのぬくもりが伝わるお菓子を届けられるよう努める。季節や行事に合わせたお菓子・デザートや米粉パンを使った新たなメニューを開発し、より多くの方に足を運んでもらえるカフェの魅力のひとつとして発信していきたい。パートナーやインターンの方の関わりをさらに増やし、カフェ内や地域のイベントとの連携を図り、お菓子部門の役割を意識しながら取り組む。地域の企業や店舗、学校とのコラボ企画、フードロス対策など、お菓子から広がる新たな可能性も模索していきたい。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員: 10名
- ・受益対象者: 区内外の一般市民のべ2,200名程度
- ・支出: 3,973,498円

4. 参加のデザイン

- ・内容:【概要】「こまちカフェ」「こよりどうカフェ」を中心としたこまちぶらすの活動において様々な関わりがうまれるよう、パートナー参加のきっかけ作りを行う。

【2025年度取り組み】各事業において、より一層参加の機会を意識して取り組んでいく。イベントの企画や日々のカフェの運営において、お客様やボランティアの皆様からのご意見を伺う機会をつくる。また、子どもから多世代にわたって関わりを築き、その方の「好きなこと」や「得意なこと」に基づいて参加できる機会を意識してつくっていく。さらに、パートナー同士の交流や学びの機会として、「パートナーぶらす会」を年に2回実施予定。学生さん主体で、SNSの発信なども行っていく予定。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員: 5名
- ・受益対象者: 区内外の一般市民のべ100名程度
- ・支出: 230,599円

III. 社会から孤立しがちな当事者・支援する人の学びあい事業

1. 「でこぼこの会」(発達障がいをもつ子どもの親を対象に情報発信・イベント実施)

- ・内容:【概要】毎月1回、お子さんの発達に不安を持つ親、支援者、当事者の方が集まり、お話会と依頼した講師による勉強会を交互に開催。

【2025年度取り組み】2025年度も、お話会と勉強会を交互に開催。勉強会では、毎年恒例の公認心理師による勉強会の他、新しい取り組みとして、就労支援事業所のスマイルステップのスタッフをお招きして、「初心者向けの就労支援について(仮)」の勉強会と福祉マップを使って、実際に地域の福祉施設を見学に行くイベントを予定している。8月には数学塾R'sroomの先生に「でこぼこのお子さんのための中学受験」をテーマにした新しい勉強会も開催予定。ランチ交流会も行う。

- ・日時: 4月11日、5月2日、6月6日、7月4日、8月1日、9月5日、10月3日、11月7日、12月5日、1月9日、2月6日、3月6日
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員: 3名
- ・受益対象者: 区内外の母子中心に、のべ100名程度
- ・支出: 136,805円

2. ケアラーズカフェ「えんがわ」(子育てと介護を同時に抱える家庭や親の介護等について関心がある家庭向けの事業)

- ・内容:【概要】子育て世代が直面する親の介護について、必要な情報に出会えることや、自身の思いを話し合える場をつくる。

【2025年度取り組み】2025年度も「子育ても介護も一人で抱えない」「介護者が自分自身を大切にする」ことを目指して活動する。対象となる方々のニーズに対応した企画も含めて、ダブルケアの方が必要な情報に出会い、思いを話し合い聞きあえるようなきっかけとなるテーマを取り入れ開催する。また、講演会の実施やSNSの活用により、広くダブルケアについての情報発信をする機会も設ける他、当事者の声を可視化したツール(葉っぱ)についても、新たに声を集めて作成することも検討したい。

- ・日時: 通年 月1回実施
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員: 3名
- ・受益対象者: 子育て中の親、介護中の方、高齢者、支援者等、のべ40名程度
- ・支出: 104,300円

3. 「～不登校・ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日」(不登校・ひきこもり学齢期児童の家族向け事業)

- ・内容:【概要】月1回金曜日又は土曜日に、不登校ひきこもり児童・生徒(学齢期)の家族の方がお互いの今の心情を安心して話すことができる場を提供。
【2025年度取り組み】2025年度も引き続きお互いの気持ちを共有したり、情報を得たりすることで、自信と元気を取り戻していただける場を提供する。また、SNS発信に力を入れ、様々な情報などを届けることで安心していただいたり、家から出られない親子の外出機会をつくる。市内で親の会を主催している支援者団体「はまおやネット」のネットワークの会や、区内のネットワークの会「ポンテ」にも参加し、地域との連携を深めながら実施する。
- ・日時:4月25日、5月23日、6月28日、7月25日、8月22日、9月27日、10月24日、11月28日、12月13日、1月23日、2月27日、3月28日(10:00～12:00又は15:30～17:30)
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員:2名
- ・受益対象者:不登校の児童の親、支援者等のべ100名程度
- ・支出:120,099円

4. 「ただい間のおうち」(不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている学齢期児童・生徒の家族向け事業)

- ・内容:【概要】月1回金曜日の夜に、不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている児童・生徒(学齢期)の親子が外に出て家族以外の第三者と交流できる場を提供。
【2025年度取り組み】子どもが外に出る第一歩として安心して過ごせる場所を提供する。この場所で自信を取り戻し、次の一歩に進めるよう子どもたちの気持ちや行動に寄り添うことができる場とする。地域の関係機関や、地域の方々、不登校経験者の方など、様々な方に関わっていただけるよう連携を深めながら実施する。
- ・日時:4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、8月9日、8月29日、9月19日、10月17日、11月21日、12月19日、1月16日、2月20日、3月18日(17:30～19:00)
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員:4名
- ・受益対象者:不登校の児童の親、支援者等のべ120名程度
- ・支出:180,294円

IV. 社会とつながりたい人が社会で活躍できる場・貢献の場を見出すためのチャレンジ事業

1. 特技を活かし、地域に貢献を考える子育て中の母親に対するサポート事業

- ・内容:【概要】こまちカフェ・こよりどうカフェにて、レンタルスペースの貸出を通して起業支援や情報発信の支援、人と人との交流の場の提供を実施。

【2025年度取り組み】こまちカフェ・こよりどうカフェで、ゆるやかに人と人がつながることのできる場として、イベントを開催、また特技や資格を活かしてチャレンジする機会としてレンタルスペースの貸出も行う。

○こまちカフェ:午前中のレンタルスペースが多く活用されていることを踏まえ、今年度も引き続き平日午後及び土曜日のレンタルスペースの活用を目指す。乳幼児の親子向けイベントが多いため、小学生等対象年齢を広げたイベントの開催もご検討いただけるよう働きかけていきたい。毎月発行しているイベントカレンダーチラシは、こまちカフェに足を運んだことのない方にも手に取って頂けるような紙面づくりを心がける。今年度は新たな枠を設け、こまちカフェスタッフ主催の様々な取り組みも紹介していきたい。

○こよりどうカフェ:今年度も引き続き、定期利用の契約者様を増やすとともに、次年度へ契約を継続していただけるよう働きかけていく。カフェタイムにふらりと立ち寄れるようなイベントも今後定期的に開催していく。チラシとあわせて昨年度開設したLINEも活用し、情報発信に取り組んでいく。

○全体:昨年度開催した契約者同士の交流会を引き続き実施。契約者様のご要望により、開催頻度を今後増やしていく。今年度は2回開催予定。契約者様のご意見をヒアリングするとともに、こまちカフェ・こよりどうカフェの相互利用をより促進していきたい。また、申し込みフォームの作成等に不安のある方が散見されるため、支援の方法について検討していきたい。

- ・日時:通年
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員:4名
- ・受益対象者:起業、教室開催を考えている方及び一般市民等、のべ2,000名程度(オンライン参加者を除く)
- ・支出:1,673,698円

2. 子育て中の母が特技を活かし生きがい及び仲間づくりのために作成した飲食物・手づくり品の販売

- ・内容:【概要】こまちカフェ内スペースにて、子育て中の方を中心とした市民がつくった「手づくり雑貨」を販売。地域の方の外出動機の創出につながり、また、子育て中の方々の得意が活きる場づくりにもつながっている。0か1ではない働き方(自宅にいながら働ける一つのスタイル)の提案の場にもなっている。

【2025年度取り組み】引き続き、年間を通してこまちカフェでの手づくり雑貨展示販売を行い、近隣の方のみならず、遠方の方・家庭やご自身の事情で外出が難しい方や、退職等で社会との関係を求めている方にとっても、特技が活かせる場・社会とのつながりを感じられる場となるよう努める。季節ごとの定期的なハンドメイド即売会の開催、契約者同士の交流会も引き続き行う。これまでのような委託販売だけでなく、店内イベントスペースや屋外のワゴン等を活用して催しができるような機会を設けることで、より主体的に関われるきっかけを作る。また、こまちぶらすの活動を知ってもらう一つの入口として、これまでもテーマを持たせたハンドメイド販売・おしゃべり会等のイベントを、より楽しめるような内容にブラッシュアップして開催する。

- ・日時:通年
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区戸塚町

- ・従事者人員:2名
- ・受益対象者:手づくり小物を地域でつくる方及び一般市民等、のべ 1,500名程度
- ・支出:901,295円

V. 地域の多様な主体が互いに連携・協働し、コミュニティの活性化を推進するためのコーディネート事業

1. ウェルカムベビープロジェクト

- ・内容:【概要】「まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし子育てを応援する社会」を目指し、出産祝いを地域の人々や企業商店とつくり、届ける事業を実施。2016年にヤマト運輸株式会社神奈川主管支店との協働で立ち上げ、2018年から横浜市鶴見区、2020年から千葉県松戸市でも取り組みが開始。2022年には茅ヶ崎市でも支部が立ち上げられ、新たに2025年4月に川崎市川崎区にて支部が立ち上がる。横浜市こども青少年局後援事業。出産祝いの内容は選考会にて4人の選考委員により認定されたものが入っており、申し込みがある世帯へ無料で配布している。(選考会開催は横浜市戸塚区・鶴見区)このプロジェクトの資金は民間財源(協賛金や寄付、自主事業収入)を主としてまかなわれており、行政と連携し実施している。住民や企業商店等様々な人が子育てに関わるきっかけとなるよう設計し、その関わりと連携により新たな社会インフラ(子育てが豊かになっていくようなコト・モノ・サービス・制度)を生み出していくことも目指している。

【2025年度取り組み】

[戸塚支部]

○出産祝い部門

2024年度に行った出産祝いを受け取る家庭の地域別分析をもとに、広報活動に力を入れ、出産祝いの受け取り地域や数が増えるよう努める。また、出産祝いを一緒に作ってくださるプレゼントパートナー13社、協賛・サプライパートナー企業約20社と交流を深め、連携しながら「ウェルカムベビーなまち・社会」に向けて、一緒に取り組んでいただけるように努める。

また、出産祝いを受け取られた方の声を丁寧に拾い、パートナー各社とも共有をしながら出産祝いのお届けを継続する。

○産前部門

地域の産前家庭に情報を届けることができるよう、産院や子育て支援施設等と連携しながら、「とつかウェルカムベビーLINE」にて毎月4回程度の配信を目標として取り組む。

○産後部門

産後の母親が気軽に足を運びゆるやかにつながれる機会として、こまちカフェでのおしゃべり会「ゆるっとママカフェ」を月2回開催に変更。月1回はフリートークにてその時気になっていることを話す機会、もう1回はテーマを設けることにより、フリートークには参加しにくいテーマへ関心がある層へアプローチする。また、テーマ設定をする会においては、プロジェクトのパートナー企業と連携しながら実施することで、社会と子育てのつながりを創る機会としていく。

また、新たな取り組みとして、年4回同じ参加者で子育ての話をしたり、プロジェクトへ子育て層からの意見を述べるメンバーを募集し、会を実施し、その声をプロジェクト実施へ反映していくとともに、子育て層のつながりづくりとプロジェクトへの参加の機会を創出する。

○タウンサポーター/ナッピーデー

赤ちゃん連れでまちに出かけやすい場所が増えていくよう、引き続き登録店舗とのコミュニケーションをとりながら「タウンサポーター」の認知度向上に力を入れる

[本部]

○支部展開

川崎区支部の初年度となるため伴走支援に力を入れながら、引き続き、鶴見支部、松戸支部、茅ヶ崎支部との連携と支部間の交流や情報交換に力を入れていく。また、支部の活動が財政的にも継続可能なものとなるよう、情報共有や仕組みづくりについても力を入れる。

○パートナー企業・団体との協働

引き続き、プロジェクトを応援いただく協賛のみならず、様々な形で多様な業種の方々にとって「ウェルカムベビーなまち」を目指すことが身近になるよう連携を進めていく。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市を中心に、全国
- ・従事者人員: 4名
- ・受益対象者: 戸塚区・鶴見区・松戸市・茅ヶ崎市・川崎市川崎区で生まれた赤ちゃんのご家庭の方、のべ1660人程度、一般市民等のべ580名程度、計のべ2240名程度
- ・支出: 4,193,872円

2. 戸塚宿ほのぼの商和会事務局

- ・内容:【概要】約100会員からなる戸塚の商店会の事務局をつとめる。「こども・高齢者・障がいをもった人も誇りと居場所と出番を感じられる地域」を商店会としてビジョンを持ち、こまちぷらすとしてもその事務局機能を担いながら商店と子育てしやすい環境について考え提案をしていく。

【2025年度の取り組み】今年度もイベントを通して会員同士をはじめ地域にお住まいの方・在勤の方・学生・会員の顧客やこまちカフェに足を運ばれる方にもお声かけし、交流と参加の機会をつくる。また、商店会を身近に感じ、関わりたくなるような情報発信、店主の人柄やお店の魅力発信に力を入れ、同時にこまちぷらす内での他事業と連携しながら子育て中の親子がまちを知り、お店につながる機会やイベント参加の機会を創出していく。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員: 3名
- ・受益対象者: 100名
- ・支出: 1,385,302円

VI. 孤立しない社会をつくるためのまちづくり・啓発・提言事業

1. 講演やコラム発信等、起業への働きかけを実施

- ・内容:【概要】講演や研修、調査協力、機関誌寄稿等を通した提言啓発を実施。

【2025年度の取り組み】行政関係者、中間支援、市民団体の方、企業、学生等向けにこまちぶらすの活動やカフェでの実践等について話し、ビジョンの普及啓発に努める。2024年度に引き続き、「カフェ型居場の展開」として、他地域や他団体に向けたこまちカフェの運営についての実務講座を実施する他、2つの地域において、当該地域の団体や自治体等連携して講座等に取り組むことで、居場所を作りたい事業者当事者のみならず、その事業者を支える中間支援団体や関心のある民間企業への働きかけも行い、日本中に「心地よい関わりのある居場所」が増えていくよう努める。また、2025年度の新たな取り組みとして、こどもたちの学びの機会をまちの様々な団体や人と一緒に創出する試みも実施する。

- ・日時: 通年
- ・場所: 神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員: 6名
- ・受益対象者: 500名
- ・支出: 5,560,484円